17ストロベリーライフ（荻原 浩）

―農家の長男に生まれたグラフィックデザイナーの「」は、父親が倒れたという知らせを受け、久しぶりに妻とともに故郷に帰る。翌朝、母親は早くからハウスで働いていた。……

Ⅰ　「朝のうちに採っておかにゃあと、味が落ちるら。」言いわけじみた口調で言い、作業に戻ってしまった。昨日今日身につけたとは思えない、①手慣れた動作に見えた。

「ねぇ、②どうしたの、これ。」恵介はが並んだトレーを指さす。「え？　ああ、薄型トレー〝トレトレ君〟。カキタ種苗の新製品。」いや、③そっちじゃなくて。「苺のこと。」「紅ほっぺ。」品種はいいから。「なんでトマトをやめたの。」親父には似合わない。トマトの時も思ったことだが、苺はなおさらだ。

「苺はかるって、お父さんが言うもんで。まぁ、そんなでもなかったけどね。去年は。」

「去年から？」「おととしから。」「なぜ急に。」「ほら、苺のほうがおしゃれじゃんか。④喜ぶんじゃないか、って思っただらぁね。」

「喜ぶって、誰が？」聞いたとたんに恵介には答えがわかってしまった。自分の質問の答えが聞きたくなくて、母親の隣にしゃがみこみ、収穫を手伝う、ふりをした。

Ⅱ　実をぶら下げている茎は、のように細いのに、なかなか折れない。母親が顔のを真ん中に集めた。「ほら、こうするの。」指の間にへた近くの茎をはさみ、折るというより、くいっとひねりあげた。まねをしてみた。くいっ。苺を潰してしまった。難しいもんだ。くいっ。くいっ。ようやく採れた。母親が苺をひと粒、恵介の鼻先に近づけてくる。

「食べてみ。」差し出した恵介の手のひらに落としたのは、ひときわ大きくて、ごつごつとなかたちをした苺だ。「まず先っぽのとこってみ。先っぽがいちばん甘いから。」言われたとおりにした。

あ。ちょっと、待て。なんだ、これ。甘い。ほのかに酸っぱい。うまい。苺って、こんなにうまいものだっけ。すっかり食べ慣れてしまって、味なんか忘れていた。もしかしたら、いままで食べた苺の中でいちばんうまいものかもしれない。

「なぜ。」こんなにうまいのか、とまで言う必要はなかった。けっして鋭い人ではないのに、子どもの頃から母親には、表情だけで⑤心を見抜かれてしまう。

「そりゃあ、採れたてだもんで。それに、ほら、出荷すんのは、熟れる前に詰めちゃうから。」

十八年前、東京で暮らしはじめて気づいたのは、⑥野菜の味が違うことだ。たとえば、とうもろこし。夜店で食う焼きとうもろこしも、スーパーで買ったのをでてみても、田舎のとうもろこしとはまったく別物だ。

問１　――線部①について、何をする動作か。具体的に記せ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問２　――線部②はどのようなことについて尋ねたものだったのか。具体的に記せ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問３　――線部③が指す事柄を一語で答えよ。

〔　　　　　　　　　　〕

問４　――線部④について、父親はどういうことを期待したのか。最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　妻が、おしゃれな苺を気に入ってくれること。

イ　妻の作業が、以前より簡単になること。

ウ　恵介が、おしゃれな苺を食べておいしいと思うこと。

エ　恵介が、農業に興味をもってくれること。

問５　段落Ⅰから、「恵介」の帰省が久しぶりであったことがわかる短いやりとりを抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問６　――線部⑤について、母親はどのようなことを見抜いたのか。文中のことばを用いて答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問７　――線部⑥はなぜか。その理由が述べられている部分を二か所、それぞれ五字以内、一〇字以内で文中から抜き出して答えよ。

▽＝〔　　 　　　　〕

▽＝〔　　　　　 　　　〕

【解答】

問１（例）苺を採ってトレーに並べる動作。

問２（例）苺（の栽培）を始めたこと。

問３　トレー

問４　エ

問５　「去年から？」「おととしから。」

問６（例）（恵介が、）いままで食べた苺の中でいちばんうまいと感じていること。

問７　▽＝採れたて（４字）

　　　▽＝熟れる前に詰めちゃう（10字）

ポイント

問２　恵介はトレーに並ぶ苺のことを尋ねたのだが、母親は、トレーについてきいたのだと思っている。

問５　苺は「去年から？」ときく恵介に母親は、「おととしから。」と答えている。少なくとも「おととし」以来帰省していないことがわかる。

問７　傍線部直前で母親が「そりゃあ、採れたてだもんで。」と言い、さらに「それに、ほら、出荷すんのは、……」と続けている。